令和３年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

Ⅰ　スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
Ⅱ　マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
Ⅲ　スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
Ⅳ　日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
Ⅴ　スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

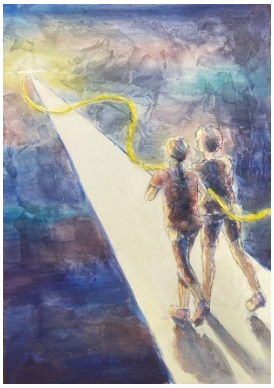
道府県・政令市名【　福岡県　】

学校名【　福岡県立太宰府高等学校　】

１実践テーマ	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ（複数選択可）
２実施対象者 （学 年・人 数）	全校生徒対象（７２５名） ※うち芸術科生徒９９名
３展開の形式	（１）学校における活動 ①　教科名（　　） ②行事名（　創立記念式典における記念講演会　） ③その他（　生徒会・芸術科生徒を中心とした取組　） （２）地域における活動 ①　イベント名（　　） ②　その他　　（　　）
４　目　標 （ねらい）	生徒会と芸術科がコラボレーションすることにより、全校生徒へのオリンピック・パラリンピック・ムーブメントを普及する。 特に、太宰府市及び太宰府ロータリークラブと「道下さん（障がい者ランナー：道下美里さん）応援プロジェクト」を推進してきた経緯もあり、この事業を通じて応援プロジェクトを継続することにより、障がい者理解に繋げることを目標とする。
５　取組内容	（１）ポスターボードや動画視聴による障がい者理解 ・芸術科１年による、ポスターボード（道下選手イメージ画）の制作・展示 令和3年8月3日（火）１０：００～１１：３０　大濠公園 ・道下選手練習会見学（芸術科１年生）

・ポスターボードの制作（芸術科１年生）

・全校生徒による、ポスターボード審査・投票



最優秀作品：（芸術科１年生女子）

（２）全校生徒によるマラソン視聴（録画）と感想文(メッセージ)作成

・パラリンピックマラソン視聴（９／５のダイジェスト版２０分程度）

・感想文（メッセージ）作成

※感想文（メッセージ）を各クラス１部選出し、道下選手へ

・生徒感想文より

今回、プロジェクトに参加させていただき「支援した」という気持ちより「学びを得た」という気持ちがとても大きいです。道下さんのことを知れば知るほど、他のパラリンピック競技や様々な障がいのことも知りたくなりました。表彰式でガイドランナーの青山さんにメダルをかけた場面はとても印象的でした。他者への感謝を忘れない姿勢は、障がいの有無は関係なく見習うべきだと感じました。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。（３年生女子）

（３）創立記念式典における記念講演会

実施日時：令和３年１１月１日（月）１３：３０（リモート）〔各教室〕

演題：「誰もが素敵に輝く社会を目指して」

講師：根木慎志氏　（日本財団パラリンピックサポートセンター）

本校創立記念日において、校長が式辞の中で 2020 東京パラリンピックにおける道下選手の活躍や、これまでの取組について紹介した。また、その後の創立記念講演会において、「あすチャレ！スクール」を活用して元車いすバスケットボール日本代表キャプテン根木慎志氏の講演会を、オンラインで実施した。

講演会終了後はチャット機能を活用し、生徒と根木氏の交流も実施した。

（4）道下美里選手校内講演会（トークショー）
実施日時：令和4年2月24日（木）14：20
＜参加者＞
太宰府市長、教育長他、太宰府ロータリークラブ、
福岡県教育委員会、福岡県教育センター、
太宰府市立中学校生徒・職員 約2,200名
※会場及びリモート参加
福岡県立高等視覚特別支援学校生徒・職員 5名
福岡県立太宰府高等学校生徒・職員及び関係者約780名
※会場及びリモート参加
＜実施方法＞
校内芸術棟からリモート配信、生徒は各教室にて講演会を視聴
太宰府市内中学校4校とその他教育機関等にも同時配信
＜内容＞
・生徒動画視聴
・講演会（トークショー）
・参加者からの質疑応答
福岡高等視覚特別支援学校、太宰府市内中学校4校、本校生徒から
・応援メッセージ、作品等を贈呈
・お礼の言葉

（本校Instagramより）

・生徒感想より
・私たちの地元に、このような偉大な方がいらっしゃるのは大変な誇りであり、そのような方のお話を聞けたのは大変うれしかった。
・世界の中で超一流と言われる選手の目標の立て方や目標へのアプローチの仕方に感動した。
・諦めなければ夢は叶うと感じた。
・障がい者と健常者との間のハードルが低くなった気がした。
・自分に何が出来るのかを考えた時、道下選手の「自分の壁を取っ払って」という言葉が大変参考になった。

６　主な成果	・地元太宰府ロータリークラブへの協力という形で始まった取組であったが、この「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」に参加したことによって、地域との連携や異校種との交流ができたこと。 ・当初の目標として掲げた「障がい者理解」について、生徒の感想文でも分かるように成果が得られたこと。 ・生徒会活動の活性化の機会が得られたこと。 ・芸術科の取組が、多くの新聞社やテレビ局にも取り上げられ、太宰府高校の広報活動にも繋がったこと。 ・特に、道下選手の講演会では、本校のみならず近隣校等へも講演会を配信できたことによって、地域連携に大きな成果が得られたこと。また、その中で、中学生や特別支援学校の生徒を招いたことにより、この講演会がそれぞれの学校においてのパラリンピック理解においても大変意義あるものとなったこと。
７実践において工夫した点（事業の特色）	・本校芸術科の「強み」を活かし、その取組を生徒会を通じて全校生徒に広げた点。 ・地元太宰府ロータリークラブやマスコミ各社の協力も得ながら、取組を進めることができた点。 ・福岡高等視覚特別支援学校等の近隣校や、太宰府市及びマスコミ等と連携することで、本事業や取組の内容・趣旨等について広く伝播すること。
８主な課題等	・コロナ禍ということもあり、実施の上で ICT を使った取組も必要となるため、ICT 活用の充実（環境整備も含めて）が望まれる。 ・オリンピアンやパラリンピアンを講師として招聘する場合、スケジュール調整や打合せについて、学校独自で行っていくことが難しい。 ・「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」自体を広報し、どのようにして理解を得るか。
９来年度以降の実施予定	・本校においては、この取組を「多様性」を認め合い、障がい者理解へと繋げる人権教育活動へ広げる。 ・今後は、この取組をボランティア活動や、スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成を図りたい。 ・この事業によって得られた地域との繋がりを、太宰府市との間で結んだ「包括連携協定」をはじめ、様々な分野において活用できるよう、継続して取組を実施する。